

- 《履修上の留意事項》1. 授業資料を配付する場合には、重要ポイントなどをメモとして適切に書き留めること。
2. 配付資料に基づいて授業を進行する場合もあるので、必ず出席すること。なお、授業を受講しない者には配付しない。
3. 授業終了後、授業内容をまとめる習慣を身に付けるように努めること。

《担当者名》○教授／石井 久淑hisayosh@ 教授／永野 恵司knagano@ 講師／宮川 博史miya@ 助教／藤田 真理mfujita@

【概 要】

人体機能科学（生理学担当）では、口腔機能（感覚、運動及び自律機能）の特色とそれらの調節系（特に神経系）について学ぶ。人体機能科学（微生物学担当）では、環境中から人体まで様々な場所に生息する微生物の種類、役割及びそれらの機能について学ぶ。

【学修目標】

（生理学担当）

- ☆ 口腔感覚の種類、感覚装置及び神経機構を説明する。
- ☆ 咀嚼（主として顎運動）に携わる筋肉、それらの作用及び調節機構を説明する。
- ☆ 嚥下や嘔吐に携わる器官、それらの作用及び調節機構を説明する。
- ☆ 唾液腺の種類、唾液分泌機構及び唾液中の成分の働きを説明する。
- ☆ 発声及び構音の仕組みについて説明する。
- ☆ 言語中枢について説明する。

（微生物学担当）

- ☆ 多種多様な微生物の生育環境について説明する。
- ☆ 微生物の種類や大きさについて説明する。
- ☆ 常在微生物について説明する。
- ☆ 有益な微生物について説明する。
- ☆ 微生物学の歴史上重要な人物の業績について説明する。
- ☆ 話題の感染症について説明する。
- ☆ 感染症の制御について説明する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	口腔機能のあらまし	● 口腔機能を学ぶうえでの生理学の重要性について理解する。 ● 口腔の感覚、運動及び自律機能について理解する。 (A-3-2)	石井 久淑
2	口腔感覚	● 口腔感覚の感覚装置について理解する。 ● 口腔の体性感覚について理解する。 ● 口腔の特殊感覚（味覚）について理解する。 (A-3-3-9)	石井 久淑
3	咀嚼と顎運動	● 咀嚼運動の特色について理解する。 ● 咀嚼運動（顎運動）に携わる筋肉（咀嚼筋）の種類とそれらの作用について理解する。 ● 咀嚼運動（顎運動）の神経機構について理解する。 (A-3-2-10)	石井 久淑
4	発声と構音	● 発声と構音のしくみとそれらに関連する器官について理解する。 ● 言語音声の特徴について理解する。 ● 言語中枢について理解する。 (A-3-2-14)	石井 久淑
5	微生物学概論 1	● 微生物学の歴史、基本性状について理解する。 (A-4-1-1)	永野 恵司
6	微生物学概論 2	● 微生物学の歴史、基本性状について理解する。 ● 演習を通して整理して理解を深める。 (A-4-1-1)	永野 恵司

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
7	話題の感染症 1	● 例示する話題の感染症について理解する。 ● 話題の感染症について調べる。 (A-4-1-2～9)	永野 恵司
8	中間試験	● 第1回から第7回までの講義内容の試験を行う。	石井 久淑 永野 恵司
9 (10	嚥下と嘔吐	● 嚥下と嘔吐運動の特色について理解する。 ● 嚥下と嘔吐運動に携わる器官とそれらの作用について理解する。 ● 嚥下と嘔吐運動の神経機構について理解する。 (A-3-2-10)	石井 久淑
11	唾液分泌	● 唾液腺の種類と唾液分泌の特徴について理解する。 ● 唾液中の成分とそれらの働きについて理解する。 ● 唾液の分泌様式について理解する。 (A-3-3-6、A-3-3-7)	石井 久淑
12	有用な微生物 1 (講義)	● 有用な微生物を理解する。 ● 有用な微生物の有効利用について知る。 (A-4-1-1)	永野 恵司
13	有用な微生物 2 (演習)	● 有用な微生物を培養してみる。 ● 有用な微生物の特徴や性状について調べる。 (A-4-1-2)	永野 恵司 藤田 真理 宮川 博史
14	有用な微生物 3 (演習)	● 培養した微生物を観察する。 ● 培養した微生物の特徴や性状について調べる。 (A-4-1-2)	永野 恵司 藤田 真理 宮川 博史
15	有用な微生物 4 (演習)	● 培養した微生物を観察する。 ● 演習内容をまとめる。 (A-4-1-2)	永野 恵司 藤田 真理 宮川 博史

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

※授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

- ◇ 中間試験は、生理学担当分を60点分、微生物学担当分を40点分で出題する。
- ◇ 定期試験は、生理学担当分を40点分、微生物学担当分を60点分で出題する。
- ◇ 中間試験を50%、定期試験を50%の配分で採点し、その合計点で評価する。
- ◇ 60点未満の場合、再試験を行う。

・試験終了後、ホームページ等に模範解答を発表するので確認すること。

【参考書】

「ビジュアル生理学・口腔生理学」学建書院

「基礎歯科生理学」医歯薬出版

「口腔微生物学・免疫学」医歯薬出版

「シンプル微生物学」南江堂

【学修の準備】

- ☆ 予習として、各項目の授業範囲を把握し、専門用語の意味を理解しておく（1時間）。
- ☆ 復習として、講義ノートを用いて、理解を深める（1時間）。
- ☆ 演習問題を復習しておく（1時間）。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1. 安全で質の高い歯科医療を提供するために必要な専門知識に基づく問題解決能力と患者ケアのための診療技能とからなる専門的実践能力、および医療・医学研究の発展のために必要な情報・科学技術の活用能力を身につけている。

（専門知識に基づいた問題解決能力、患者ケアのための診療技能、情報・科学技術を生かす能力）

DP3. より安全で質の高い歯科医療を実践し社会に適応する医学を創造していくために生涯にわたって自己および他の医療者との研鑽を継続しながら医療者教育と学術・研究活動にも関与できる能力を身につけている。

（科学的探究、生涯に渡ってともに学ぶ姿勢）

DP2. 「総合的に患者・生活者を支える歯科医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を身につけている。

（総合的に患者・生活者をみる姿勢、プロフェッショナリズム、コミュニケーション能力）

【実務経験】

石井 久淑（歯科医師）、永野 恵司（薬剤師）、藤田 真理（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

実務経験のある歯科医師及び薬剤師が、基礎科目と歯科臨床科目との関連性を明確化した講義を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している